

コロサイ人への書

第一章

神の御心によりてキリスト・イエスの使徒となれるパウロ及び兄弟テモテ、二書をコロサイに居る聖徒、キリストにありて忠實なる兄弟に贈る。願くは我らの父なる神より賜ふ恩恵と平安と汝らに在らんことを。

一 我らは常に汝らの爲に祈りて我らの主イエス・キリストの父なる神に感謝す。四 これキリスト・イエスを信ずる汝らの信仰と凡ての聖徒に對する汝らの愛とにつきて聞きたればなり。五 斯く聖徒を愛するは、汝らの爲に天に蓄へあるものを望むに因る。この望のことは汝らに及べる福音の眞の言によりて汝らが曾て聞きし所なり。六 この福音は全世界にも及び、果を結びて増々大になれり。汝らが神の恩恵をききて、眞に之を知りし日より、汝らの中に然りしが如し。七 汝らが、我らと共に僕たる愛するエパfrasより學びたるは、この福音なり。彼は汝らの爲にキリストの忠實なる役者にして、八 汝らが御靈によりて懐ける愛を我らに告げたり。九 この故に我らこの事を聞きし日より汝等のために絶えず祈り、かつ求むるは、汝ら靈のもろもろの智慧と顯悟とをもて神の御意を具に知り、一〇 凡てのことと主を悦ばせんが爲に、その御意に従ひて歩み、凡ての善き業によりて果を結び、いよいよ神を知り、一一 また神の榮光の勢威に隨ひて賜ふもろもろの力によりて強くなり、凡ての事よろこびて忍び、かつ耐へ、一二 而して我らを光にある聖徒の嗣業に與るに足る者とし給ひし父に感謝せん事

イ 哥前二・一を見よ	三	徒二三・六を見よ	ネ (羅一五・三〇)	二・六 約参六
ロ 哥後一・一を見よ	チ 羅一・八を見よ	ヨ 弗一・一三を見よ	ナ 西一・四	オ 西一・六 腓一・二
ハ 腓一・二を見よ	リ 弗一・一五を見よ	西一・二三 (彼後一・二)	ラ 弗一・一六 彼後一・二	多 三・一四 彼後一・八 (太七・一九)
ニ 哥後一・一 及び 徒一六・二を見よ	ヌ 弗六・一八	ル 加五・六を見よ	タ 羅一〇・一八を見よ	ク 弗三・一六を見よ
ホ 徒九・二三を見よ	テ 西一・九	ヲ 提後四・八 彼前一・四	提 前三・一六 西一・二三	ヤ 弗四・二
ヘ 羅一・七を見よ	ト 提後四・八 彼前一・四	カ 西一・二三 羅五・二	レ 羅一・一三を見よ	マ 徒二六・一八を見よ
(西四・二八)	カ 西一・二三 羅五・二	ソ (西四・七)	ソ (西四・七)	ケ 徒二〇・三二を見よ
ト 羅一五・六 哥後一	徹 前五・八 多一・一	ツ 西四・一二 門二三	ノ 弗四・一を見よ (西	フ (弗二・一八)

一三 父は我らを暗黒の權威より救ひ出して、その愛しみ給ふ御子の國に遷したまへり。一四 我らは御子に在り
 一四 たり。一五 父は我らを暗黒の權威より救ひ出して、その愛しみ給ふ御子の國に遷したまへり。一六 我らは御子に在り
 一五 て贖罪すなはち罪の赦を得るなり。一五 彼は見得べからざる神の像にして、萬の造られし物の先に生れ給へる者な
 一六 り。一六 萬の物は彼によりて造らる、天に在るもの、地に在るもの、見ゆるもの、見えぬもの、或は位、あるひは
 一七 支配、あるひは政治、あるひは權威、みな彼によりて造られ、彼のために造られたればなり。一七 彼は萬の物より
 一八 先にあり、萬の物は彼によりて保つことを得るなり。一八 而して彼はその體なる教會の首なり、彼は始にして死人
 一九 の中より最先に生れ給ひし者なり。これ凡ての事に就きて長とならん爲なり。一九 神は凡ての満足れる徳を彼に宿
 二〇 して、二〇 その十字架の血によりて平和をなし、或は地にあるもの、或は天にあるもの、萬の物をして己と和がし
 二一 むるを善しと爲給ひたればなり。二一 汝等もとは悪しき業を行ひて神に遠ざかり、心にて其の敵となりしが、二三 今
 二二 は神キリストの肉の體をもて其の死により汝等をして己と和がしめ、潔く瑕なく責むべき所なくして、己の前に
 二三 立しめんと爲給ふなり。二三 汝等もし信仰に止り、之に基きて堅く立ち福音の望より移らずば、斯く爲らるること
 二四 を得べし。此の福音は汝らの聞きし所、また天の下なる凡ての造られし物に宣傳へられたるものにして、我パウ
 二五 口はその役者となれり。
 二六 われ今なんぢらの爲に受くる苦難を喜び、又キリストの體なる教會のために我が身をもてキリストの患難
 二七 の缺けたるを補ふ。二七 われ神より汝等のために與へられたる職に隨ひて教會の役者となれり。二八 これ神の言、す

イ徒二六・一八を見よ 赤哥後四・四を見よ 八
 ロ太三・一七 (弗一・ へ西一・一七、一八 前二・二七を見よ 四
 六) ト弗一・二〇を見よ ヲ弗一・二二を見よ ヲ弗一・二二を見よ
 ハ弗一・七及び 羅三 子弗一・二〇、二二 ヲ弗一・二二を見よ ヲ弗一・二二を見よ
 二四を見よ (西二・一五) ヲ弗一・二二を見よ ヲ弗一・二二を見よ
 二提前一・一七 來一 三六を見よ 三六を見よ 三六を見よ
 一・二七 約一・一八 又約一・一 (約八・五 又弗二・一三を見よ 彼前三
 を見よ)

(第四・二三) 一(哥前二五・二〇) 二(西二・一九) 三(西二・二二) 四(西二・二二) 五(西二・二二) 六(西二・二二) 七(西二・二二) 八(西二・二二) 九(西二・二二) 一〇(西二・二二) 一一(西二・二二) 一二(西二・二二) 一三(西二・二二) 一四(西二・二二) 一五(西二・二二) 一六(西二・二二) 一七(西二・二二) 一八(西二・二二) 一九(西二・二二) 二〇(西二・二二) 二一(西二・二二) 二二(西二・二二) 二三(西二・二二) 二四(西二・二二) 二五(西二・二二) 二六(西二・二二) 二七(西二・二二) 二八(西二・二二) 二九(西二・二二) 三〇(西二・二二) 三一(西二・二二) 三二(西二・二二) 三三(西二・二二) 三四(西二・二二) 三五(西二・二二) 三六(西二・二二) 三七(西二・二二) 三八(西二・二二) 三九(西二・二二) 四〇(西二・二二) 四一(西二・二二) 四二(西二・二二) 四三(西二・二二) 四四(西二・二二) 四五(西二・二二) 四六(西二・二二) 四七(西二・二二) 四八(西二・二二) 四九(西二・二二) 五〇(西二・二二) 五一(西二・二二) 五二(西二・二二) 五三(西二・二二) 五四(西二・二二) 五五(西二・二二) 五六(西二・二二) 五七(西二・二二) 五八(西二・二二) 五九(西二・二二) 六〇(西二・二二) 六一(西二・二二) 六二(西二・二二) 六三(西二・二二) 六四(西二・二二) 六五(西二・二二) 六六(西二・二二) 六七(西二・二二) 六八(西二・二二) 六九(西二・二二) 七〇(西二・二二) 七一(西二・二二) 七二(西二・二二) 七三(西二・二二) 七四(西二・二二) 七五(西二・二二) 七六(西二・二二) 七七(西二・二二) 七八(西二・二二) 七九(西二・二二) 八〇(西二・二二) 八一(西二・二二) 八二(西二・二二) 八三(西二・二二) 八四(西二・二二) 八五(西二・二二) 八六(西二・二二) 八七(西二・二二) 八八(西二・二二) 八九(西二・二二) 九〇(西二・二二) 九一(西二・二二) 九二(西二・二二) 九三(西二・二二) 九四(西二・二二) 九五(西二・二二) 九六(西二・二二) 九七(西二・二二) 九八(西二・二二) 九九(西二・二二) 一〇〇(西二・二二)

二七 なはち歴世歴代かくれて今神の聖徒に顯れたる奥義を宣傳へんとてなり。二七 神は聖徒をして異邦人の中なるこの奥義の榮光の富の如何許なるかを知らしめんと欲し給へり、此の奥義は汝らの中に在すキリストにして榮光の望なり。二八 我らは此のキリストを傳へ、智慧を盡して凡ての人を訓戒し、凡ての人を教ふ。これ凡ての人をしてキリストに在り、全くなりて神の前に立つことを得しめん爲なり。二九 われ之がために我が衷に能力をもて働き給ふものの活動にしたがひ、力を盡して勞するなり。

第二章

一 我なんぢら及びラオデキヤに居る人々、その他すべて我が肉體の顔をまだ見ぬ人のために如何に苦心するかを汝らの知らんことを欲す。二 斯く苦心するは、彼らが心慰められ、愛をもて相列り、全き顯悟の凡ての富を得て、神の奥義なるキリストを知らん爲なり。三 キリストには智慧と知識との凡ての寶藏れあり。四 我これを言ふは、巧なる言をもて人の汝らを欺くこと勿らん爲なり。五 われ肉體にては汝らと離れ居れど、靈にては汝らと偕に居りて喜び、また汝らの秩序あるとキリストに對する信仰の堅きとを見るなり。六 汝らキリスト・イエスを主として受けたるにより、其のごとく彼に在りて歩め。七 また彼に根ざして、その上に建てられ、かつ教へられし如く信仰を堅くし、溢るるばかり感謝せよ。

八 なんぢら心すべし、恐くはキリストに従はずして人の言傳と世の小學とに従ひ、人を惑す虚しき哲學をもて汝らを奪ひ去る者あらん。九 それ神の満足れる徳はことごとく形體をなしてキリストに宿れり。一〇 汝らは彼に在りて満足れるなり。彼は凡ての政治と權威との首なり。二 汝らまた彼に在りて手をもて爲ざる割禮を受けた

テ可一六・一九を見よ ユ 哥前一・七 彼前一・
 ア 非三・一九、二〇を 一三 約壹二・二八、
 見よ(太一六・二三) 三・二 二(提前六・一〇)
 サ 羅六・二を見よ、哥 二(非三・二二)
 後五・一四(西二・ 二) 二(西二・二二)
 シ 可七・二二、三二 哥 二(非二・二を見よ)
 前六・九、一〇、一八 伊 弗四・二二を見よ
 二〇) 前六・九、一〇、一八 伊 弗四・二二を見よ
 一六 弗四・二二(三) 一六 弗四・二二(三)
 一七 弗四・二二(三) 一七 弗四・二二(三)
 一八 弗四・二二(三) 一八 弗四・二二(三)
 一九 弗四・二二(三) 一九 弗四・二二(三)
 二〇 弗四・二二(三) 二〇 弗四・二二(三)
 二一 弗四・二二(三) 二一 弗四・二二(三)
 二二 弗四・二二(三) 二二 弗四・二二(三)
 二三 弗四・二二(三) 二三 弗四・二二(三)
 二四 弗四・二二(三) 二四 弗四・二二(三)
 二五 弗四・二二(三) 二五 弗四・二二(三)
 二六 弗四・二二(三) 二六 弗四・二二(三)
 二七 弗四・二二(三) 二七 弗四・二二(三)
 二八 弗四・二二(三) 二八 弗四・二二(三)
 二九 弗四・二二(三) 二九 弗四・二二(三)
 三〇 弗四・二二(三) 三〇 弗四・二二(三)
 三一 弗四・二二(三) 三一 弗四・二二(三)
 三二 弗四・二二(三) 三二 弗四・二二(三)
 三三 弗四・二二(三) 三三 弗四・二二(三)
 三四 弗四・二二(三) 三四 弗四・二二(三)
 三五 弗四・二二(三) 三五 弗四・二二(三)
 三六 弗四・二二(三) 三六 弗四・二二(三)
 三七 弗四・二二(三) 三七 弗四・二二(三)
 三八 弗四・二二(三) 三八 弗四・二二(三)
 三九 弗四・二二(三) 三九 弗四・二二(三)
 四〇 弗四・二二(三) 四〇 弗四・二二(三)
 四一 弗四・二二(三) 四一 弗四・二二(三)
 四二 弗四・二二(三) 四二 弗四・二二(三)
 四三 弗四・二二(三) 四三 弗四・二二(三)
 四四 弗四・二二(三) 四四 弗四・二二(三)
 四五 弗四・二二(三) 四五 弗四・二二(三)
 四六 弗四・二二(三) 四六 弗四・二二(三)
 四七 弗四・二二(三) 四七 弗四・二二(三)
 四八 弗四・二二(三) 四八 弗四・二二(三)
 四九 弗四・二二(三) 四九 弗四・二二(三)
 五〇 弗四・二二(三) 五〇 弗四・二二(三)
 五一 弗四・二二(三) 五一 弗四・二二(三)
 五二 弗四・二二(三) 五二 弗四・二二(三)
 五三 弗四・二二(三) 五三 弗四・二二(三)
 五四 弗四・二二(三) 五四 弗四・二二(三)
 五五 弗四・二二(三) 五五 弗四・二二(三)
 五六 弗四・二二(三) 五六 弗四・二二(三)
 五七 弗四・二二(三) 五七 弗四・二二(三)
 五八 弗四・二二(三) 五八 弗四・二二(三)
 五九 弗四・二二(三) 五九 弗四・二二(三)
 六〇 弗四・二二(三) 六〇 弗四・二二(三)
 六一 弗四・二二(三) 六一 弗四・二二(三)
 六二 弗四・二二(三) 六二 弗四・二二(三)
 六三 弗四・二二(三) 六三 弗四・二二(三)
 六四 弗四・二二(三) 六四 弗四・二二(三)
 六五 弗四・二二(三) 六五 弗四・二二(三)
 六六 弗四・二二(三) 六六 弗四・二二(三)
 六七 弗四・二二(三) 六七 弗四・二二(三)
 六八 弗四・二二(三) 六八 弗四・二二(三)
 六九 弗四・二二(三) 六九 弗四・二二(三)
 七〇 弗四・二二(三) 七〇 弗四・二二(三)
 七一 弗四・二二(三) 七一 弗四・二二(三)
 七二 弗四・二二(三) 七二 弗四・二二(三)
 七三 弗四・二二(三) 七三 弗四・二二(三)
 七四 弗四・二二(三) 七四 弗四・二二(三)
 七五 弗四・二二(三) 七五 弗四・二二(三)
 七六 弗四・二二(三) 七六 弗四・二二(三)
 七七 弗四・二二(三) 七七 弗四・二二(三)
 七八 弗四・二二(三) 七八 弗四・二二(三)
 七九 弗四・二二(三) 七九 弗四・二二(三)
 八〇 弗四・二二(三) 八〇 弗四・二二(三)
 八一 弗四・二二(三) 八一 弗四・二二(三)
 八二 弗四・二二(三) 八二 弗四・二二(三)
 八三 弗四・二二(三) 八三 弗四・二二(三)
 八四 弗四・二二(三) 八四 弗四・二二(三)
 八五 弗四・二二(三) 八五 弗四・二二(三)
 八六 弗四・二二(三) 八六 弗四・二二(三)
 八七 弗四・二二(三) 八七 弗四・二二(三)
 八八 弗四・二二(三) 八八 弗四・二二(三)
 八九 弗四・二二(三) 八九 弗四・二二(三)
 九〇 弗四・二二(三) 九〇 弗四・二二(三)
 九一 弗四・二二(三) 九一 弗四・二二(三)
 九二 弗四・二二(三) 九二 弗四・二二(三)
 九三 弗四・二二(三) 九三 弗四・二二(三)
 九四 弗四・二二(三) 九四 弗四・二二(三)
 九五 弗四・二二(三) 九五 弗四・二二(三)
 九六 弗四・二二(三) 九六 弗四・二二(三)
 九七 弗四・二二(三) 九七 弗四・二二(三)
 九八 弗四・二二(三) 九八 弗四・二二(三)
 九九 弗四・二二(三) 九九 弗四・二二(三)
 一〇〇 弗四・二二(三) 一〇〇 弗四・二二(三)

神の右に坐し給ふなり。ニ 汝ら上にあるものを念ひ、地に在るものを念ふな、三 汝らは死にたる者にして其の生命はキリストとともに神の中に隠れ在ればなり。四 我らの生命なるキリストの現れ給ふとき、汝らも之とともに榮光のうちに現れん。

五 されば地にある肢體、すなはち淫行・汚穢・情慾・惡慾、また慳貪を殺せ、慳貪は偶像崇拜なり。六 神の怒は、これらの事によりて不從順の子らに來るなり。七 汝らも斯る人の中に日を送りし時は、これらの惡しき事に歩めり。八 然れど今は凡て此等のこと及び怒 憤恚・惡意を棄て、譏と恥づべき言とを汝らの口より棄てよ。

九 互に虚言をいふな、汝らは既に舊き人とその行爲とを脱ぎて、一〇 新しき人を著たればなり。この新しき人は、これを造り給ひしものの像に循ひ、いよいよ新になりて知識に至るなり。一一 斯てギリシヤ人とユダヤ人、割禮と無割禮、あるひは夷狄、スクテヤ人・奴隸・自主の別ある事なし、それキリストは萬の物なり、萬のものの中にあり。

一二 この故に汝らは神の選民にして聖なる者また愛せらるる者なれば、慈悲の心・仁慈・謙遜・柔和・寛容を著よ。一三 また互に忍びあひ、若し人に責むべき事あらば互に恕せ、主の汝らを恕し給へる如く汝らも然すべし。

一四 凡て此等のものの上に愛を加へよ、愛は徳を全うする帯なり。一五 キリストの平和をして汝らの心を掌どらしめよ、汝らの召されて一體となりたるは、これが爲なり、汝ら感謝の心を懷け。一六 キリストの言をして豊に汝らの

一七 汝らの召されて一體となりたるは、これが爲なり、汝ら感謝の心を懷け。一八 キリストの言をして豊に汝らの

一九 汝らの召されて一體となりたるは、これが爲なり、汝ら感謝の心を懷け。二〇 キリストの言をして豊に汝らの

二一 汝らの召されて一體となりたるは、これが爲なり、汝ら感謝の心を懷け。二二 キリストの言をして豊に汝らの

二三 汝らの召されて一體となりたるは、これが爲なり、汝ら感謝の心を懷け。二四 キリストの言をして豊に汝らの

二五 汝らの召されて一體となりたるは、これが爲なり、汝ら感謝の心を懷け。二六 キリストの言をして豊に汝らの

二七 汝らの召されて一體となりたるは、これが爲なり、汝ら感謝の心を懷け。二八 キリストの言をして豊に汝らの

二九 汝らの召されて一體となりたるは、これが爲なり、汝ら感謝の心を懷け。三〇 キリストの言をして豊に汝らの

一七 衷に住ましめ、凡ての智慧によりて、詩と讚美と靈の歌とをもて、互に教へ、互に訓戒し、恩恵に感じて心のうちに神を讚美せよ。一七 また爲す所の凡ての事あるひは言あるひは行爲みな主イエスの名に頼りて爲し、彼によりて父なる神に感謝せよ。

一八 妻たる者よ、その夫に服へ、これ主にある者のなすべき事なり。一九 夫たる者よ、その妻を愛せよ、苦をもて之を待ふな。二〇 子たる者よ、凡ての事みな兩親に順へ、これ主の喜ぶたまふ所なり。二一 父たる者よ、汝らの子供を怒らすな、或は落膽することあらん。二二 僕たる者よ、凡ての事みな肉につける主人にしたがへ、人を喜ばする者の如く、ただ眼の前の事のみを勤めず、主を畏れ、真心をもて従へ。二三 汝ら何事をなすにも人に事ふる如くせず、主に事ふる如く心より行へ。二四 汝らは主より報として嗣業を受くることを知ればなり。汝らは主キリストに事ふる者なり。二五 不義を行ふ者はその不義の報を受けん、主は偏り視給ふことなし。

第四章

一 主人たる者よ、汝らも天に主あるを知れば、義と公平とをもて其の僕をあしらへ。
 二 汝ら感謝しつつ目を覺して祈を常にせよ。三 また我らの爲にも祈りて、神の我らに御言を傳ふる門をひらき、我等をしてキリストの奥義を語らしめ、四 之を我が語るべき如く顯させ給はんことを願へ、我はこの奥義のために繫れたり。五 なんぢら機をうかがひ、外の人に對し智慧をもて行へ。六 汝らの言は常に恵を用ひ、鹽にて味つけよ、然らば如何して各人に答ふべきかを知らん。

七 愛する兄弟、忠實なる役者、主にありて我とともに僕たるテキコ、我がことを具に汝らに知らせん。ハ わ

イ 弗五・一九を見よ 二 哥前一〇・三一
 口 弗五・一九 西一・ 亦 弗五・二〇を見よ 三 弟五・二二を見よ
 二八 西三・一五 四 弟六・一
 ハ 哥前一四・一五を見よ へ 一八一四・一 弗五 又 弗六・四
 一 羅五・一三 二 二二一六・九 三 弗六・五
 ト 弗五・二二を見よ 四 弗六・六
 子 弗五・二五を見よ 五 弗六・七
 リ 弗六・一 六 弗六・八
 カ (弗六・八) 七 弗六・九
 ヨ 徒二〇・三二を見よ 八 弗六・九
 タ 哥前七・二二を見よ 九 徒一・二四を見よ
 レ 弗六・八を見よ 一〇 弗六・一八
 撒 後一・六 一 弗六・二八
 二 弗六・二八 二 弗六・二八
 ナ 徒後四・二を見よ 三 弗五・一六
 四 弗六・二八 四 弗五・一六
 ヲ 徒一四・二七を見よ 五 弗四・一一を見よ
 ム 弗三・三を見よ 六 弗三・三を見よ 七 弗五・一五
 四、六・一九 八 弗六・二〇を見よ
 ウ 弗六・二〇を見よ 九 弗五・一六
 ク (弗四・二九) 一〇 弗九・五〇
 ヤ 可九・五〇 一 弗六・二二
 マ 七一九 弗六・二二 二 弗六・二二
 ケ 徒二〇・四を見よ 三 弗六・二二

